

会議名	第36回家畜人工授精優良技術発表全国大会
開催日時	平成20年2月14日(木)9:00~16:40
開催場所	東京都千代田区大手町1-8-3 JAビル9階ホール
主催者	社団法人 日本家畜人工授精師協会
参加人数(概数)	320名
1.発表及び特別講演の演題	<p>優良技術発表</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 牛人工授精用シース管の9滅菌による受胎率向上効果試験 北海道 加藤郁夫 2) 制限哺乳と子宮マッサージを活用した受胎率向上対策 鹿児島県 川原数真 3) 授精を逃した乳牛に対する受精卵移植の実用性の検討 千葉県 川名清和 4) 「1年1産1採卵」技術を用いた新しい試み 岡山県 孝本真二 5) 私の和牛繁殖の現状と今後の目標 香川県 荻田秀樹 6) 家族ぐるみで達成した一年一産 山口県 長屋利幸 7) 牛受精卵移植技術の普及と受胎率向上対策 宮城県 落安 勝 8) 海士町肉用牛センターの生産性向上の取り組み 島根県 亀谷典代 9) ホルスタイン種経産牛のPG投与後の活動量及び授精適期の検討 北海道 前田順子 10) 放牧場内人工授精による放牧場利用向上の取り組み 山形県 山口 仁 11) 黒毛和種牛に対するCIDRの使用成績の検討 兵庫県 山中 克巳 12) 大樹町における繁殖指導の取り組み 北海道 鈴木健二 <p>特別講演 演題 「雌牛の繁殖成績の向上を期して」 講師 東京農工大学 教授 加茂前秀夫 氏</p> <p>その後、講評、賞状授与があった。西川賞には6番と12番の発表が選ばれた。</p>
2.発表の概要	<p>発表演題は全部で12課題あったが、午後から参加したため、発表を聴くことができた最後の4課題の報告をする。</p> <p>9)の発表： 授精師は、牛にPGを投与してその3日後に一律AIをすることにしてきたが、そうすると農家は授精師に任せっぱなしで発情の観察がおろそかになるという懸念がもたれたことから本調査を行い、牛に歩数計をつけて牛の活動量の増加を指標に発情を確認し、その都度AIすると受胎率が向上するということを報告した。</p> <p>10)の発表： 開設して30年以上経過し生産力の落ちた牧場の草地を更新し、さらに牧場においてAIを開始したところ、放牧される牛の頭数が急増することになった。牧場での受胎率は、放牧経験のない牛、放牧中の増体が低い牛で悪いことから授精技術以外の要因が重要なこと、発情の同期化によって発情が発見しや</p>

	<p>すくなることなどを報告した。</p> <p>11)の発表： 現在、繁殖障害の治療に CIDR が広く使われるようになってきたものの、使用の方法は、ホルモン剤の併用も含めいろいろみられることから本調査を実施し、CIDR 単独による簡易かつ有効な使用方法を提示した。ここでも CIDR 抜去後の発情での受胎率は、栄養状態が低い牛で悪いことを報告した。</p> <p>12)の発表： 地域において繁殖に問題を抱える農家を対象として、JA 大樹町は繁殖指導を試みた。指導に当たっては、マニュアルによるとともに、時間をかけての農家との対話を重視した。指導の結果、農家の繁殖に対する意識の向上をとおして繁殖成績の向上につながったが、指導を止めるとまた前の状態に戻るといった事例もみられたという。また、栄養管理等々繁殖指導以外の要因の影響も無視し得ないことを報告した。</p> <p>特別講演： 発情とは何かから始まって、発情徴候、発情周期、発情徴候の発現から発情の開始そして排卵までの時間経過、適期授精、排卵確認、分娩後の卵巣機能の回復といった牛の繁殖生理、とくに発情と授精に係る基本的な事項を再確認した。繁殖に係る牛の生理反応にはかなりの幅があること（例えば発情周期は平均 21 日だが、17 日～25 日もの幅がある）そのため十分な時間をかけた発情の観察や授精適期の判断が重要なことが強調された。</p>
3. その他の発表課題で関心のあったもの	特になし
4. 今後研究開発課題採択に当たって参考とすべき事項等	特になし
5. 所感	<p>近年、牛の受胎率が低くなったという声が聞かれるが、多くの若い人がそれぞれの地域で、牛の繁殖成績の向上に熱心に取り組んでいることは大変心強い。本日の発表、特別講演をとおして、牛の繁殖に係る基本的な知識、発情観察と適期授精、繁殖技術の確立と利用、歩数計等の補助用具の有効な活用、牛の栄養状態等、繁殖以外の要因、農家の意識・意欲等が実際の繁殖成績に影響を及ぼしていることが改めて確認されたと思う。近年、牛の飼養頭数の増加が人による繁殖管理を難しくし、牛の生産能力の著しい向上が牛の繁殖生理に少なからぬ影響を及ぼしていると思われる中で、上述 ～ のことから改めて見直すことが必要と思われる。地道な地域活動や技術開発等の積み上げを期待したい。</p>
報告者	宮重 俊一